

第 72 回全国植樹祭の開催結果について

1 経緯

- ・平成 30 年 7 月 第 72 回全国植樹祭滋賀県実行委員会を設立 (第 1 回総会)
- ・平成 30 年 8 月 第 72 回全国植樹祭 滋賀県開催正式決定 (国土緑化推進機構理事会)
- ・平成 30 年 10 月 第 72 回全国植樹祭 開催地正式決定:「鹿深夢の森 (甲賀市)」
- ・平成 31 年 2 月 第 72 回全国植樹祭滋賀県実行委員会 (第 2 回総会)
- ・令和 元年 7 月 第 72 回全国植樹祭滋賀県実行委員会 (第 3 回総会)
- ・令和 2 年 1 月 第 72 回全国植樹祭滋賀県実行委員会 (第 4 回総会)
- ・令和 2 年 1 月 第 72 回全国植樹祭の「基本計画」を策定
- ・**令和 2 年 4 月 第 72 回全国植樹祭の開催年の延期が決定 (令和 3 年→令和 4 年)**
- ・令和 2 年 7 月 第 72 回全国植樹祭滋賀県実行委員会 (第 5 回総会 (書面決議))
- ・令和 3 年 3 月 第 72 回全国植樹祭滋賀県実行委員会 (第 6 回総会 (書面決議))
- ・令和 3 年 11 月 第 72 回全国植樹祭滋賀県実行委員会 (第 7 回総会)
- ・令和 4 年 1 月 第 72 回全国植樹祭滋賀県実行委員会 (第 8 回総会)
- ・令和 4 年 1 月 第 72 回全国植樹祭の「実施計画」を策定
- ・**令和 4 年 4 月 第 72 回全国植樹祭への天皇陛下のオンラインによる御臨席を発表**
- ・**令和 4 年 6 月 第 72 回全国植樹祭しが 2022 開催**

2 大会での取組について

- ・令和 4 年 6 月 5 日に開催した「第 72 回全国植樹祭しが 2022」の取組について報告
 ※詳細については、【別紙】のとおり

【参考 1】全国植樹祭の開催状況および予定

回数	開催年	開催県	開催地	備考
69	2018	福島県	海岸防災林 (南相馬市)	2 回目
70	2019	愛知県	愛知県森林公園 (尾張旭市)	2 回目
71	2021	島根県	三瓶山北の原 (大田市)	2 回目
72	2022	滋賀県	鹿深夢の森 (甲賀市)	2 回目
73	2023	岩手県	高田松原津波復興祈念公園 (陸前高田市)	2 回目
74	2024	岡山県	ジップアリーナ岡山 (岡山市)	2 回目
75	2025	埼玉県	秩父ミュージックパーク (秩父市)	2 回目

【参考2】第72回全国植樹祭の開催理念（「実施計画」から抜粋）

私たちは、ふるさと滋賀の地域特性である「森－川－里－湖」のつながりと、いにしえより培われてきた「森林」、「びわ湖」、「人（暮らし）」のかかわりを再確認し、将来を見据えながら森林を守り、活かし、これらの取組を支えることで、碧（あお）く輝くびわ湖と健全で緑豊かな森林を、次の世代、その次の世代へと持続的につないでいきます。

【参考3】第72回全国植樹祭 大会宣言

大会宣言

第72回全国植樹祭は、滋賀県甲賀市の鹿深夢の森を式典会場として開催され、

「木を植えよう びわ湖も緑のしずくから」が大会テーマとして掲げられた。

様々な命を育む水の源である森林へ畏敬の念を抱き、また森林を緑豊かに守り育ててきた先人に感謝するとともに、森林の保全・活用を通じて持続可能な社会を実現するため、次の事項に重点を置いて、緑化運動の更なる展開を図ることを宣言する。

- － 私たちは、森林がもつカーボンニュートラルに果たす役割を正しく理解し、森林・林業分野が果たすべき環境への取組を進めていきます。
- － 私たちは、「森－川－里－湖」でつながる健全で緑豊かな森林を守るとともに、農山村の活性化を通じ、心豊かな生活を実現する取組を進めていきます。
- － 私たちは、植林・保育・伐採・木材利用の適切な循環を通じ、森林・林業・木材産業を未来へつないでいきます。

令和4年6月5日

第72回全国植樹祭

第72回

全国植樹祭



木を植えよらびわ湖も緑のしずくから

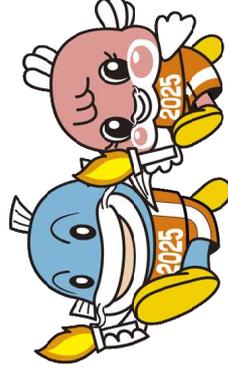


植樹祭を
今後にも
活かして
いくわ～



第72回全国植樹祭しが
PR大使 うおーたん

ノウハウ



レガシー



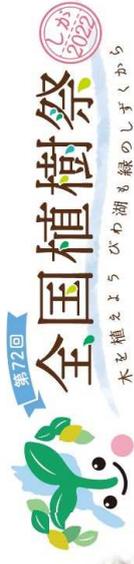
「やまの健康」
イメーજキネヲカタ
やまのおっ山

R4.8.8 常任委員会資料

第72回全国植樹祭 開催経緯

- 【6年前】 平成28年12月 招致表明
- 【5年前】 平成29年8月 滋賀県開催内定
- 【4年前】 平成30年9月 準備委員会設立（基本構想・会場候補地検討）
- 【4年前】 平成30年7月 実行委員会設立
- 【4年前】 平成30年8月 滋賀県開催正式決定
- 【4年前】 平成30年10月 開催会場決定
- 【3年前】 平成31年4月 全国植樹祭推進室設置
- 【2年前】 令和2年1月 基本計画決定
- 【2年前】 令和2年4月 **開催年の延期決定**
- 【1年前】 令和3年8月 **開催日決定**
- 【開催年】 令和4年1月 実施計画決定
- 【開催年】 令和4年4月 **オンライン開催決定**
- 【開催年】 令和4年6月 **第72回全国植樹祭開催**

第72回全国植樹祭 開催理念



私たちは、ふるさと滋賀の地域特性である

「森—川—里—湖」^{うみ}のつながりと、

いにしえより培われてきた

「森林」、「びわ湖」、「人（暮らし）」の

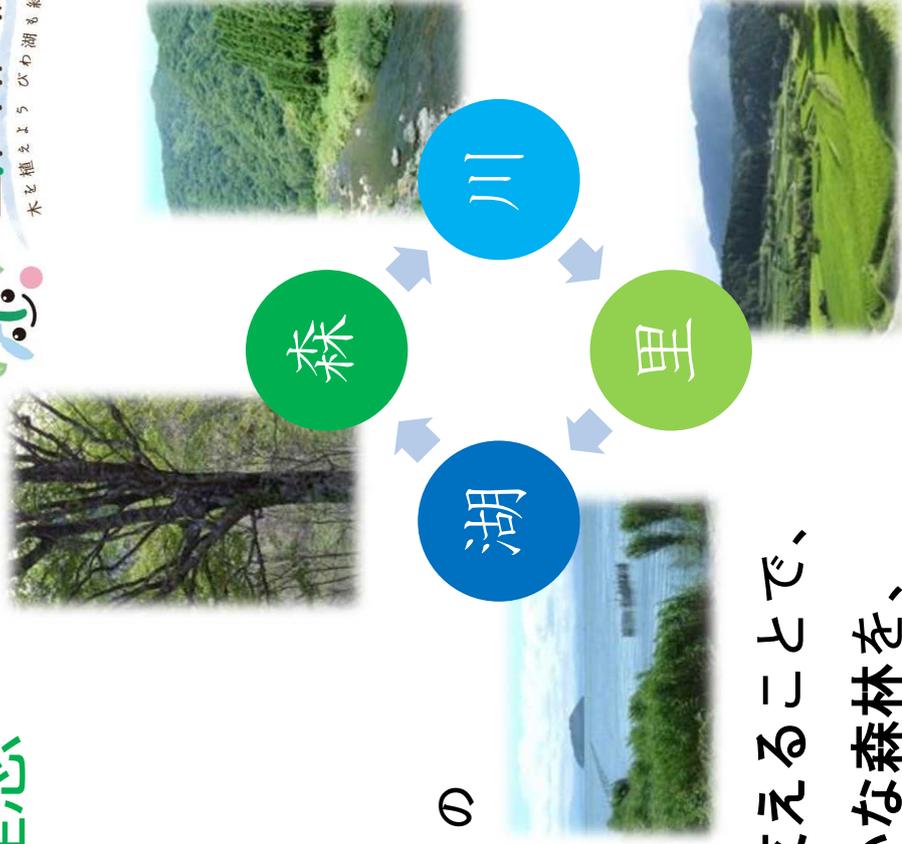
かかわりを再確認し、

将来を見据えながら

森林を守り、活かし、これらの取組を支えることで、

碧（あお）く輝くびわ湖と健全で緑豊かな森林を、

次の世代、その次の世代へと持続的につないでいきます。



環境に配慮した取組 1



琵琶湖の恵みを森へ(資源の循環利用) 【大会初の試み】

水草たい肥や下水コンポストの活用

「琵琶湖」の水を育む「滋賀の森」、「滋賀の森」を育てる「琵琶湖」の恵みの循環を
全国・世界へ向けて発信



水草の堆肥化



琵琶湖の水草を
堆肥化した客土



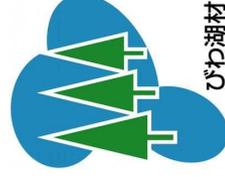
高島浄化センターで試験
運用中の下水コンポスト



記念植樹に活用

県産木材の積極的な利用(循環型林業の促進)

- ・県産材、特に認証を受けた「びわ湖材」を積極的に活用し、木の良さをPR



環境に配慮した取組 2



～CO₂ネットゼロの大会～

- CO₂排出抑制 —
- ・脱プラの促進・食ロス削減
- ・輸送のCO₂をできる限り削減
- ・電力の一部を電気自動車から供給

— 緑のしずくカーボン・オフセットプロジェクト —

- ・「緑のしずくCO₂見える化キット」をイベントで展示しPRするとともに、大会で排出されたCO₂をオフセットするため募金活動を実施

達成 弁当廃棄ゼロ



⇒ 飲料水はカートカン

↑ 植樹会場で使用した生分解性シヨップバック



↑ 大会で電源供給の日産リーフ

(試算) 単位：t - CO₂

大会でのCO₂排出量 約48
植樹活動でのCO₂吸収量 ▲約11

CO₂ オフセット量 約37



↑ 緑のしずくCO₂見える化キット



“しがCO₂ネットゼロ”の大会を目指し、森林がCO₂ネットゼロに果たす役割や、カーボン・オフセットの仕組みを学べる。

大会に向けた機運醸成 1

- 広報誌の作成
植樹祭日より「緑のしずく」、子どもかべしんぶん、苗木日より、ミニガイド
- 横断幕、幟、バックパネルの設置
- PRグッズの作成
エコバック、ネットストラップ、ボールペン
ジャンパー・ポロシャツ、ぬいぐるみ など
- 情報発信
HP、YouTube、Instagramなどの活用
郵便局「PR大使に年賀状を書こうキャンペーン」
第2710回近畿宝くじ 証票図柄



大会に向けた機運醸成 2



・協賛募集

募集期間 令和元年6月20日～令和4年3月31日

資金協賛 61件 25,160,340円

物品・その他協賛 35件 計96件



その他：電気自動車の貸与



感謝状贈呈式



物品：緑の少年団の帽子など



物品：招待者エコバック

大会での協賛ボード



式典会場（会場全景）

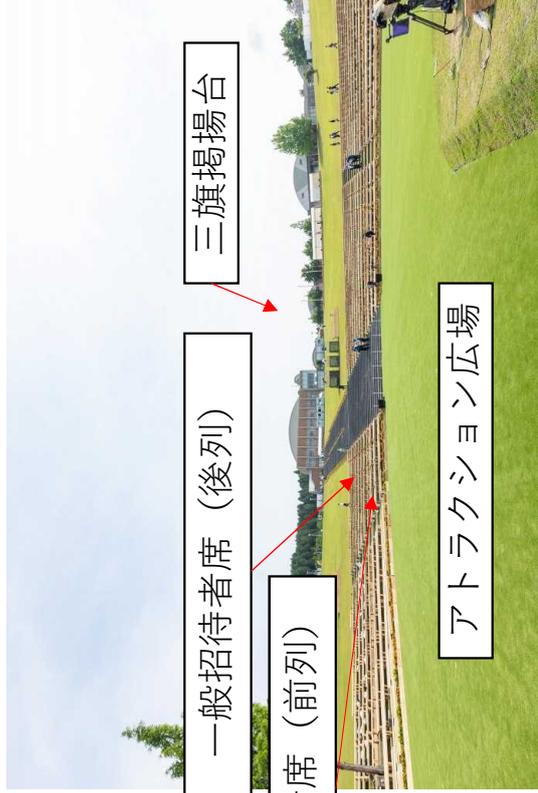


お野立所

大型モニター
 中央（東京会場）：190インチ
 右側（滋賀会場）：316インチ



特別招待者席
 (ウイング席)



特別招待者席 (前列)

一般招待者席 (後列)

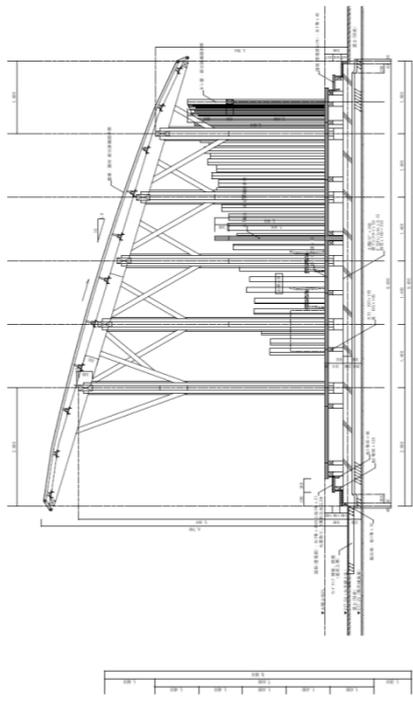
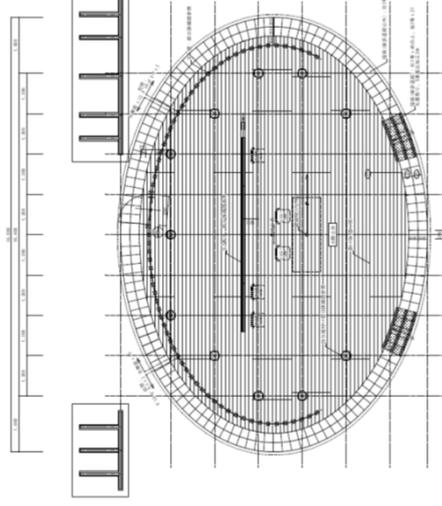
三旗掲揚台

アトラクション広場

式典会場（お野立所）



- 円形の床は琵琶湖をイメージし、柱部分は樹木を、背面はヨシ原、屋根は樹冠の広がりを表現することにより、森と湖のつながりや、「滋賀らしさ」を感じさせるとデザイン
- 植樹祭終了後は、部材の一部を2025年開催の国スポ施設等で再利用



式典会場（式典木製品）

【大会初の試み】



CLTの活用

CLT工法（直交集成板）を広くPRすることを目的に、びわ湖材から製作したCLTをお野立所の床や目隠し壁、お机前板等にご利用



お野立所



お机



CLT休憩所

式典会場（式典木製品）

- ・ お種入れ・お盆は、木地師発祥の地として林業遺産に認定されている東近江市の職人が制作
- ・ お絞受けは、甲賀市の伝統工芸品である水口細工を使用



お種入れ（木地師）



お盆（木地師）



お絞受け（水口細工）

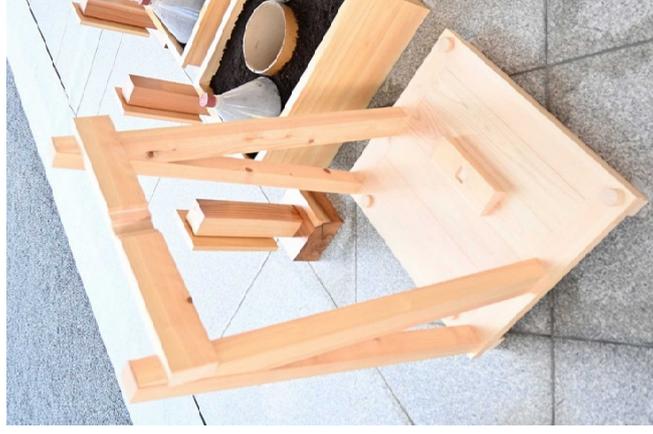
式典会場（式典木製品）

知事伐採木の活用

平成7年の第19回全国育樹祭で枝打ちを行なったヒノキを、お鋏等が収穫し、お鋏等として利用



お鋏



お鋏立て



招待者記念品

式典会場（飾花）

お野立所のフラワーアレンジメント、式典所前飾花、会場一円
 のプランター飾花を県内の農業高校をはじめ、農業大学校、学校
 花壇コンクール参加小中学校、特別支援学校、そして開催市地元
 団体・地元企業に協力いただいた。



プランター飾花はフレンチ、アフリカカン2種類の「マリーゴールド」のみ
 という大胆な構成となった。



「マリーゴールド」のみ



御歩道には開催市甲賀市の花ササユリを
 提供いただいた。

式典会場（飾花）

お野立所のフラワーアレンジメントでは、滋賀県が誇る「日本六古窯」のひとつであり開催市甲賀市の伝統工芸「信楽焼」の花器を地元の高校に制作いただいた。

また、フラワーアレンジメントには皇后陛下が御成婚の際に献上されたバラ「プリンセス・マサコ」を使用。



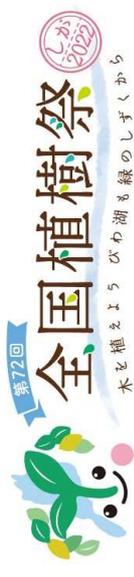
式典所前飾花をはじめ、各飾花にはテーマを設定し、デザインいただいた。



琵琶湖をイメージしたガラスを施した信楽焼の花器と、大会ポスターをイメージしたフラワーアレンジメント



式典会場（木製装飾物）



ウェルカムゲート「浮葉」



ウェルカムボード「Grid」



「ズレンガ」 信楽焼タヌキオブジェ



フォトスポット「We love Shiga」 「歓迎樹」



苗木のホームステイ・スクールステイ木製メッセージプレート

おもてなし広場

総合案内所やステージ、ブース出展のほか、様々な木製装飾物を設置。

感染症対策として「広場での飲食禁止」を掲げ、飲食コーナーは未設置。



おもてなしステージの様子



出展ブースの様子



物販商品等はおもてなし袋へ封入

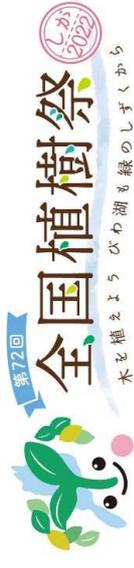


装飾物との記念写真



装飾物との記念写真

大会弁当



「ぐるっと近江の恵みおもてなし弁当」(商標登録済)

- ・ 県産食材をふんだんに使用した「滋賀県らしい」メニューを選定
- ・ 箸には、県産間伐材（比叡山延暦寺の霊木）の端材を使用するとともに、トレーには植物由来かつ生分解性の素材を採用するなど、環境に最大限配慮



弁当



パッケージと箸



フタ裏面には食文化に着目した献立説明を掲載

招待者記念品



県産材を使用した木製品や滋賀県をPRする商品、市町からの特産品を選定。

特に、献上茶としても高名な開催市甲賀市の朝宮茶や多くの酒蔵を持つ滋賀県ならではの地酒、そして1年前イベントで知事が伐採したヒノキからつくったボールペンや根付けなどは特筆すべきものである。

< 記念品例 >



朝宮茶、クッキー、信楽焼カップのセット



地酒



知事伐採樹のボールペン

東京会場



皇居内（御車寄せ）にお手植え等の植樹行事を行う会場を設営



全景



御座所



お植え箱 お欽立て



お手播き箱



ビジョンカー

第72回全国植樹祭（式典 1）

・イントロダクション



開催市長（甲賀市長）挨拶



大会概要紹介



式典会場紹介



大会までの取組紹介



アトラクション（水口囃子生演奏）



ナビゲーター紹介
（西川貴教さん、安蘭けいさん）

第72回全国植樹祭（式典 2）



- ・プロローグ【これまでを知る】 県民創作劇「森林・びわ湖・人のハーモニー」等



県民創作劇「森林・びわ湖・人のハーモニー」

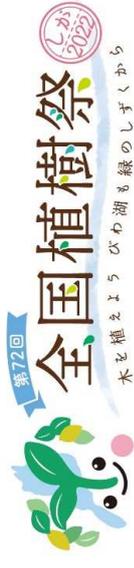


感謝状の贈呈



記念切手贈呈

第72回全国植樹祭（式典 3）



・記念式典（天皇后両陛下下御着席～）



（東京会場）

天皇后両陛下下御着席



（滋賀会場）



開会のことば



三旗掲揚・国歌静聴

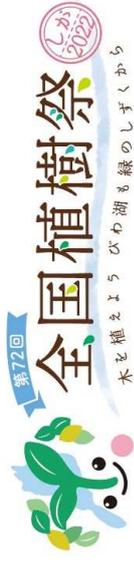


主催者挨拶（大会会長）



主催者挨拶（滋賀県知事）

第72回全国植樹祭（式典 4）



・記念式典（天皇陛下のおことば～）



天皇陛下のおことば



表彰



苗木の贈呈



お手植え・お手播き 樹種説明
（緑の少年団）



天皇陛下のお手植え



皇后陛下のお手植え

第72回全国植樹祭（式典 5）



・記念式典（天皇皇后両陛下お手植え・お手播き～）



天皇陛下のお手播き



皇后陛下のお手播き

樹種区分	お手植え	お手播き
天皇陛下	スギ (近江さわやか杉) トチノキ アカガシ	クロマツ コウヤマキ
皇后陛下	ヒノキ イロハモミジ エドヒガン	ウツクシマツ ホンシヤクナゲ



代表者記念植樹 2回に分けて実施
(1組目〔1,3列目〕、2組目〔2列目〕)



生演奏（よし笛）



緑の少年団にお声かけ
される天皇陛下

第72回全国植樹祭（式典 6）



・記念式典（【今、誓う】大会テーマの表現）



ナビゲーターによる詩の朗読



「森を守る、活かす、支える」立場で
次世代を担う代表者による森林づくりへの誓い



参加者全員で「森-川-里-湖」を表現



黄色いハンカチ（里を表現）を振る両陛下



コロナで参加できなくなった緑の少年団に
歓迎のメッセージをハンカチに記載してもらった



～ 森林づくりへの誓い ～

守る

- 滋賀の森がいつまでも緑で溢れるよう、木々を植え、育むことを

活かす

- 常に新たな息吹が育まれ、緑のしずくが絶えないよう、木々を暮らしに活かしていくことを

支える

- 森や川や湖と共に生き、大切にすることを

- **碧く輝くびわ湖と健全で緑豊かな森林を持続的につないでいくことを**

第72回全国植樹祭（式典 7）

- 記念式典（大会宣言～天皇后両陛下御退席）



大会宣言



閉会のことば（滋賀県議会議長）



リレーセレモニー（滋賀県知事から岩手県知事へ）



（東京会場）

天皇后両陛下御退席



（滋賀会場）

第72回全国植樹祭（式典 8）



・エピソード【未来へつなぐ】次世代につながる森林に思いをはせて」



アトラクション（甲賀忍玉太鼓団×KOUGA彩風舞人）



活動発表（漁民の森づくり、やまの健康、森のようちえん）



出演者ラインナップによるグランドフィナーレ



招待者記念植樹会場

- 式典会場の隣接地を含め、4箇所の招待者記念植樹会場を設営
- スギ、ヒノキ、コナラ、クヌギなど33種約2,260本を植樹



鹿深夢の森



市原にここにこの森



みなくち子どもの森



比叡山

一般植樹会場



- 誰でも気軽に参加できることをコンセプトに、
県内3か所に一般植樹会場を設置。

【地球市民の森】

植樹本数：300本



【森林公園くつきの森】

植樹本数：300本



【きゃんせの森】

植樹本数：70本



サテライト会場



- 大会当日に多くの県民に植樹祭を身近に感じていただいたために、県内3か所(うち県設置は2か所)にサテライト会場を設置。

えきまちテラス長浜【県主催】
参加人数 7,113人(のべ)



県立琵琶湖博物館【県主催】
参加人数 1,584人(のべ)



忍の里プララ【市主催】
参加人数 2,500人(のべ)



PR会場

【大会初の試み】



- 琵琶湖の恵みを受ける琵琶湖・淀川流域の府県に対し、滋賀の森林が担う大切な役割や大会理念のPRを行うため、事前に流域府県の2か所にPR会場を設置し、観光分野とも連携してサテライト会場や一般植樹会場等への誘客を促進。

【京都PR会場】

- 日時：3月19日(土) 10:00～16:00
- 場所：岡崎公園 (京都市)



PR大使と他市町のご当地キャラも応援



クイズラリー



木育体験エリア



各ブース出展

【大阪PR会場】

- 日時：3月27日(土) 10:00～16:00
- 場所：大阪城公園駅前広場 (大阪市)



植樹祭PRブース



クイズラリー



各ブース出展



イベントの電力をすべてリーフで供給

第72回全国植樹祭 (開催結果)



参加者数合計

14,926人

(内訳)

式典招待者数	943人
サテライト会場参加者数	11,197人
一般植樹会場参加者数	674人
スタッフ、出演者数	2,112人



ポスト全国植樹祭イベント



開催記念

秋のポスト全国植樹祭イベント（イオンの森「あぶらひ」協働事業）

官民協働による植樹等の森づくり活動、全国植樹祭の開催理念を将来世代に伝えるために建立する記念碑の除幕、天皇后両陛下がお手植えされた苗木のお披露目を行う。

日程：令和4年10月23日（日）

場所：鹿深夢の森、滋賀県油日林木育種場

主催：（公財）イオン環境財団、第72回全国植樹祭滋賀県実行委員会、

滋賀県、（公財）滋賀県緑化推進会、緑の少年団滋賀県連盟

規模：合計約300人（調整中）



全国植樹祭後の方向性

- 全国植樹祭の開催を契機として、川上、川中、川下の連携をさらに強化し、よき一層、林業・木材産業界の振興に取り組んでいく。
- 具体的には、主伐・間伐・再造林をより一層進め、木材の活用を促進する。また、地域住民の参加を促し、林業の魅力を高める。さらに、木材の加工・流通を促進し、木材の需要を拡大する。
- やまの魅力を発信し、産物などの価値を見直し、魅力を増やしていく。また、林業の魅力を発信し、産物などの価値を見直し、魅力を増やしていく。
- 滋賀の活性化を推進し、林業の魅力を発信し、産物などの価値を見直し、魅力を増やしていく。また、林業の魅力を発信し、産物などの価値を見直し、魅力を増やしていく。